

2024年度

法律科目論述式試験② 問題

(民事訴訟法・刑事訴訟法・商法)

(試験時間 14:30～16:30 120分)

1. 受験にあたっての注意

- (1) 試験終了前に答案を完成させた場合であっても途中退出はできません。トイレ等による退出も休憩時間以外は、原則としてできません。試験時間中の無断退出は棄権とみなします。
- (2) 試験を途中で棄権する場合であっても解答用紙は回収しますので、解答用紙の試験会場からの持ち出しは禁止します。また、解答用紙は科目毎に1枚ずつ配布します。
- (3) 解答用紙及び試験用六法の受験番号欄と氏名欄については、黒のペンまたはボールペンを使用して記入してください。また、解答欄はHBの黒鉛筆またはシャープペンシル、黒のペンまたはボールペンを使用して記入してください。
- (4) 机の上に置くことができるものは、受験票、黒のペンまたはボールペン（色の消えるものを除く）、HBの黒鉛筆またはシャープペンシル、ラインマーカーまたは色鉛筆、プラスチック製消しゴム、時計（時計機能だけのもの）、眼鏡、その他監督者が許可した物です。

2. 不正行為・迷惑行為の禁止

以下の行為があった場合は「失格」とし、その時点以降の受験はできません。また、すでに受験した部分についても無効とし、採点は行いません。

- (1) 試験中に他人に援助を与えたり、他人から援助を受けた場合
- (2) 他人に代わって試験を受けた場合
- (3) 他人に対する迷惑行為を行った場合
- (4) 試験監督者の指示に従わなかった場合
- (5) その他の不正行為を行った場合

商法

次の【設問】の(1), (2)の両方に答えなさい(配点は1:3)。なお、(1)と(2)は独立した問題である。解答に際しては、適宜、条文を挙げること。解答用紙は、表面(30行)のみを使用すること。

甲株式会社(以下、「甲会社」という。)は、株券発行会社である公開会社であり、種類株式発行会社ではない。令和5年1月末の時点で、甲会社の発行済株式総数は200株であり、そのうちY1が100株、Aが40株、Bが30株、Cが30株を保有している。また、甲会社の取締役はY1、Y2及びY3であり、代表取締役はY1である。なお、甲会社は基準日の制度を採用していない。

同年2月1日、Dは、Bから甲会社株式30株を譲り受け、甲会社に対し、Bから交付を受けた当該株式にかかる株券を提示して、適法に株主名簿の名義書換えを請求した。これに対し、甲会社は、過失によりDの名義書換請求を放置したため、甲会社の株主名簿上、Bが株主のまま記載されていた。

【設問】

(1) 令和5年6月20日、甲会社は定時株主総会を開催したが、それに先立ちBに招集通知を発し、同人に議決権を行使させた(以下、「本件決議」という。)

甲会社が本件決議において、Bに議決権を行使させたことの適法性について、BD間の株式の譲渡の効力に触れたうえで、論じなさい。

(2) Aは株主総会においてY1に批判的な言動を繰り返すようになった。Aは反社会的勢力である団体に所属する者であることから、Y1はAによる議決権行使は甲会社の利益に反すると考えた。そこで、Y1は、甲会社がY1の友人Eに500万円を贈与し、EにAの保有する甲会社株式の全部を500万円で買い取らせることを、取締役会に提案した。そして、Y2とY3はこの提案に賛成した。その後、Y1はAと交渉したところ、Aもこれに応じることに同意した。そこで、甲会社は、Eに500万円を贈与し(以下、「本件贈与」という。)、Aは、その保有する甲会社株式の全部をEに譲渡し、株券を交付した。

① 本件贈与に関して、EおよびY1は、会社法上、甲会社に対してどのような責任を負うか(なお、会社法423条は検討しなくてよい。)。また、② 本件贈与を知ったCは、当該責任に関して会社法上どのような請求ができるか。

(80点)